

八幡平いにしへの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



との さか せき ひ 殿坂の石碑

所在地：沢口77番地（地蔵寺内）
指定年月日：昭和46年4月21日（旧安代町）

石に経文や梵字・仏などの文字を刻んだ石碑を「念仏塔」といいます。その中でも、板状に加工して頭部を山型にし、二条の枠線で囲み、上部に梵字、中下部に年号や願文を刻んだものが「板碑」とされ、欠損していますが、殿坂の石碑は、これに分類されます。関東地方から発生したものが、鎌倉時代にこの地を拝領した御家人が広めたと思われます。

銘文は、中央上部に行書体で「南無阿弥陀仏」、向かって右側から「延文二年五月廿五日」「見阿弥陀仏覚霊位」と刻まれています。

江戸時代の寺伝によると鹿角二万石の奇物とされ、いにしえに空海上人が地方遍歴の折に、この地を訪れ、高位貴臣である安保中納言の墳墓を弔い、「南無阿弥陀仏」と白帛に墨書きして堂内に納めたものが、のちの南北朝時代に揮毫を惜しんで石碑に刻み建立し、幕末に殿坂の地から現在の境内に移したとの伝承です。

県内では、板碑は南部に多く分布し、県北や鹿角地方では希少です。空海遍歴譚は全国に流布していますが、この板碑は、踊念仏で有名な時衆(宗)流の南無阿弥陀仏の六字名号と「阿弥」を号した墓碑銘から「時衆板碑」です。南朝勢力が優勢な地域に北朝年号（西暦1357年）を刻んでいることから、中世にこの地を治めた有力者の仏教信仰と社会背景をうかがい知ることができます。

《参考文献》日本石仏事典（雄山閣）、安代の自然と文化（岩手県立博物館）、紀元2600年記念荒澤村・田山村郷土教育資料

編集後記

5月は運動会シーズン、
天気やきもきした人も多
いのではないだろうか。
私もその一人でした。天候
が良くない中、子どもたち
の頑張る姿に毎回のことな
らに感動します。成長を実
感する場ですね。その感動
に浸りながら私はカメラと
格闘。運動会終了後にある
お母さんから「遠くからし
か撮れていなかったよね」と
とギクリの一言。「でも、
北口君も最初はそうだった
よ」と続いた言葉に、私も
成長を誓いました。（齋藤）

今月号から当面の間、広
報への広告掲載を見合わせ
ることになりましたので、
編集後記はこちらにお引
越します。▽9ページの通り、
8月に北東北インターハイ
のレスリング競技が八幡平
市で開催されることになり
ました。姉妹都市の宮古市
で開催できなくなった中、
これまで全国規模のスキー
大会を開催してきた運営の
ノウハウが評価されて決定
したのではないかと思います。
今年の夏は、八幡平市
がさらに熱くなりそうです。
(北口)